

【刊夕】日十三月七



加五稅郵 錢十五月一 錢貳金部一
刊休日祭曜日 錢05行1語字21號5料5成
治文崎川 人刷印人輯編兼行發
五三町橋長町平郡城石縣島福
番〇三六話電 社開新日每警常 所行發
社會式株刷印日每警常 所刷印

魂祭りの由来と縁起考

眞繼雲山

▲宗教としての盆會
これを要するに盂蘭盆會とは地獄、餓鬼道など惡趣に墮して苦しめる先亡の苦患を除くための修法であり、またこれを私たちの宗教として受け取る時、如何に唯物萬能の唯物論者といへども、祖先の靈の前には合掌を禁じ得ないでありませう。
一たびこの世を去りし先亡父母とは永久に再び地上に

見ゆることは出来ぬ、従つて如何に孝順をつくしたいと思ふても永久にそれの叶ふ日は無いのであるとして絶望、詠嘆、悔恨の涙に暮るゝ私たちが不孝兒に取りてそれはタツタ年一度、なつかしき祖先のたましいと觸れ合ふことの出来るのが盂蘭盆會であり、而かもそれは孝順の至誠を表現すべき嚴かな儀式として私たちに恵まれた尊き機會であることを思ふとき、私たちが亦た自恣日たる七月十五日を縁として深く自らの罪根を反省し、ざん悔し、心を至純にして祖先の靈前にぬか

零餘子忌句屑(三)

渡邊 武子

しげ／＼と黄楊にたづねて零餘子忌
高枝の葉かげの枇杷の眞黄かな
蝙蝠に待つ人ありて萩に佇つ
バルコンに遠き灯や蚊食鳥

渡邊 何鳴

眼とづればおもかけちかし零餘子忌
のこざれし人にまぢりて零餘子忌
釣鐘草にうすき日ながれ零餘子忌
蚊食鳥磔の如く降り消えし
枇杷の核ふくみて思ふことありし
暮れこめし湖のくらすや蚊食鳥

づき、せめてもの不存の罪をわびて追福を祈るべきである。そこに盂蘭盆の尊き宗教の世界が展開されるものと存じます。
▲佛教と孝順思想
終りに佛教が如何に孝順の思想を高調した教へであるかを知るために佛説の二三を左に掲げて本稿を結びます。梵網經に曰く、父母師僧三寶に孝順すべし孝順は至道の法なり。
觀無量壽經に曰く、父母に孝養するは三世の諸佛、淨業の正因なり。
涅槃經に曰く、奇なるかな

文藝募集

父母、我れ等を生育して大苦惱を受く。正に恩を報じ隨順供養すべし。
難報經に曰く、たとへ左の肩に父を持し右の肩に母を持し千年を経歴して背におくども猶ほ父母の恩を報ずること能はじ。
父母恩重經に曰く、父母の恩徳はかりなく邊際なし父母の恩を報ぜむために布施修福せよ、これを爲さざるは地獄の人なり云々と。
(終り)



□全力の尊さ

雀紅生

俺は一人ぼつちだ
淋しい淋しい
一人ぼつちだ
けれども唯一つ
仕事だけは楽しい
何故楽しいのか
全力を注ぐからだ
あゝ全力は尊い

綴方欄

交通安全デーの感想

平第三校 孫六 孫子義秀

ちよつと交通と一口に言つて見た所大したことはないやうだが、よくよく考へて見るとなかく一通ではない。
つひ此の間白銀町の人達が自動車を買切りで團體をつくつて日光へ行つた歸り途川前あたりで運轉手が居眠りをしてがけに落ちた。大したけが人は出来なかつたさうだが、これも運轉手の居眠りをしたのは勿論原因だが、多分交通をなすに重要な道路も悪かつたのであらう。
將來我が平も立派な大都會となるには此の道路をよくして危険のないやうにしなければならぬと思ふ。

科人婦・科産
院醫坂井

町田町平
番九五五話電



◀舉壯の此よ見・しなれ枯夏に畫名▶

●り替日十三●

の……藏惠千岡片
の……稔 田高
の……郎二長林

普通席二〇錢

館平

松竹下加茂名作
助演—千早晶子
かたわ籬
文政七年の頃常陸の國大津の濱に起る物語り。
松竹蒲田全力傾注名畫
婦人世界所載・名小説
藤野秀夫・井上雪子
八雲恵美子・光喜三子 助演
日活提供千恵プロ超大作名畫
入江たか子第一回千恵プロ顔合せ
元祿十三年
原作・林不忘氏・刃傷未遂
サンデー毎日春季特別號所載

御新佛への大サービス

法名入提灯の大廉賣!

- 瓜形 一對房付 金二圓五十錢ヨリ
- 角形 一對房付 金三圓ヨリ
- 經尺三 金三圓ヨリ 尺四 金四圓半錢ヨリ
- 尺五 金五圓半錢ヨリ 尺六 金七圓ヨリ
- 尺八 金九圓ヨリ 二尺 金十圓半錢ヨリ

是非御下命は電話九五番?

平四丁目

スガノヤ提灯店

お商用ニ

タクシー電 五六九

ドライブニ 六三三

イワキタクシー

傘子朱用男 出外の季雨 意用御

ヤルツ 目丁四平

愛讀者への奉仕

川崎小鳥著

滿州土産談

四六版二百數十頁

月極讀者に無代進呈

本紙連載の川崎本社社長執筆「滿州土産談」は前後百回に亘り、滿州を鋭利な觀察眼に依つて、あらゆる方面より、縦横に解剖し、輕妙な筆致は、よく其の實相を捉え來つて餘す處なく、眼前に展開しました。本社には各方面の求望に鑑み、茲に多大な犠牲を拂つて、單行本となし日頃の御後援に酬えん爲め、讀者諸君に、洩れなく無代進呈する事となり、目下印刷中であります。今や日支兩國間の交渉往來益々緊密なるに當り、滿州の近情を明らかに知る事は、轉じて我が國運の歸趨を卜すに足るべく、從つて國民必讀の文字は此の好著の全幅に飛躍して居ります。御期待を願ふと同時に本社の微衷を諒せられよ!

省廢合に斷然反對

石城郡農會が積極的行動

石城郡農會では農林商工兩省の合併問題は斷然反對の烽火をあげる事となり、二十九日帝國農會宛に反對電報を發し態度を明かにした。三十一日郡内各町村農會長役員と謀つて積極的行動を開始することとなつた。

印紙稅成績

前年より増加

平稅務署管内印紙稅定期検査は廿一日より六日間に亘り行はれたが受檢者は七百

更らに増發

浴客の爲め臨時列車

平驛では海水浴客の雜踏を防ぐ爲め既記の如く既

臨時列車運轉を開始したが今年には天候不順の爲め殆んど浴客が出なかつたので臨時列車の運轉も豫定通り行はれず居た。二三日來より愈々本陽氣となつたので驛では愈々臨時列車の確實な運轉を行ふ事となり更に本年は毎日の臨時列車以外に日曜日には特に平驛發午前七時五十分四倉驛着、同八時六分の一列車を増發する筈である。

夏秋蠶繭調

桑の對策講究

石城郡各地の夏蠶狀況は掃立前後より近年稀な天候不良の爲め繭安の折柄一般養蠶家は非常に氣を揉んだが數日來天候回復し夏井、三坂、永戸各地方は目下三齡前後にあり順調に進めば例年の一萬貫以上の收繭を豫想されてゐる。秋蠶は早きは掃立を始め遅きも來る八月四、五日頃までには終りを告げるので今年には氣温低下のため桑の發育悪く昨年よりも二割減と見られこれが對策講究中で副業として首位を占めてゐる養蠶業の飼育法の改善、品質向上を計つてゐる。矢先尠からず頭をいためてゐる。

町村事務指導

石城郡各町村吏員の事務指導會

は八月十五日より四日間平植田の兩町に於いて縣地方課長以下出張開催する。植田十五、十六、平十七十八日

赤井嶽や新舞子に キャンパーの群れ

近來非常に目立つ

心得と準備の數々

近年石城郡下にもキャンピングが一種の流行化し殊に青年學生の間には暑中休暇を利用して關ヶ井嶽や磐城舞子等を目掛けて出掛ける者が近來非常に目立つて來たやうである。そこでキャンパーの心得として準備しなればならぬ事は先づ服装からいへば帽子はなるべくツバの廣いものがよい、上着やズボン

水道變更委員會

平町上水道工事一部變更に關し本日午前九時から役場内に會計係りの委員會開かる

平町人事

- 出 生
 - △六間門五 眞木一郎氏二女ヨウ子
 - △立町三 荒井常延氏長男幸成
 - △紺屋町六 高木孝氏三女ユキ
- 死 亡
 - △鎌田町四 齋藤マサ(四六)

滿州土産談(冥)

川崎小鳥

今日話

同じ消化不良の病氣でも、母親の乳で育てられてゐる所謂人乳養育兒と、牛乳その他で育てられてゐる人工養育兒とは非常に輕重があつて、人乳養育の赤ちゃんは人工養育赤ちゃんにくらべると、てんでお話にならぬくらゐ輕いのが普通です。したがつてかゝい復も早いが、人工養育の赤ちゃんは常に重く早く適當な手當をしないと大變な事になります。これだけ人乳の効は素晴らしい力を天から授けられてゐるもので、近來都會の小兒に疫癘の多くなつたのは都會婦人が、美貌を保つために搾乳を嫌がる悪い傾向も手傳つてゐると思はれます。かうした場合何よりも大事なのは人工養育を人乳養育にかへることです。

への品と共に腹巻をわすれてはならぬ。履き物として靴は丈夫な編みあげがよい、ほか板裏草履が一足あればなほ都合が宜しいそれから用品はリュックサック(小さいものよりは寧ろ大きいもの)荷物も多くても困難を少しくして不便であるから研究する必要があるが地圖手帳、時計、マツチ、斧又は鉈、小さいシャベル、小刀水筒(ズック製バケツ、網(大小とりませ)ハリ金、手ぬぐひ、石鹼、チ

と踏めるが、其の教養の点に至つては、正に中流以下である。女の子は長い車中の時々に二本の足を前に伸ばして、全身に力を込め「ウウ……」とのけぞる。すると其の度びに此の母親は頻りに口小言を云ひながら、夫れを止めるのである。母親としては無作法さをたしなめる積りらしいが、夫れは餘りに無理である。育ち盛りのハチ切れさうな全身の力が、その捌け口を求めて此の動作は、寧ろ自然である。夫れを口八釜敷く制止しやうとする母親が間違つて居る。僕は人事ならず、其の女の子に同情して、ハラ／＼して居た、すると車窓から見る山の中腹に、幾つかの土饅頭が連なつて居た、其の母親は突然カン高い聲で女の子に叫んだ「ホ

リ紙、ランタン、ローソクハリと縫ひ糸、五寸位の釘數本、應急藥、郵便はがき切手、電報頼信紙などは必要であるから忘れてはならぬ、尚持ち物整理のため小袋の用意も必要である、食器として飯盒一個とホウロひきの湯のみ。皿一二個位でも決して事を缺かぬ、そして鍋又はフライパンの用意があれば結構である携帶食糧は重からず、かさばらず養育と利用に富むものがよい、ラ、アレを御覽、ヨボの墓ですヨ」

朝鮮人に對する卑稱である。鮮人はヨボと呼ばれる毎に、非常な侮辱を感じる。日鮮人間の暗闘は、斯かる處に胚胎する。鮮人が我々同様陛下の赤子であり、我々の親愛なる同胞である今日、我々は鮮人を侮辱的の觀念を以つて見るが如き事あつてはならぬ。此の母親は不識々々の間に、鮮人卑下の心理を、其の女の子に植え付けて居る。退屈な女の子は土饅頭を見る度びに「ヨボの墓ヨ、ヨボの墓ヨ」と興がつて居た。

耳鼻咽喉科 増田醫院

平町 南町 電 四八二

給料を前借して

自動車の乗逃げ

平から四倉まで至り

タクシー待ちばけ

平町南町二一飲食店喜樂亭
事御代フデ方コック鈴木三
次(三)は廿九日午後四時半
主人より給料の前借を受け
四倉の友人を訪ねると稱し
一丁目松崎自動車店の貸切
で四倉町に行つたが自動車
を待たした儘何れへか逃走
行衛を晦したので本日主人
から平署へ取押方を願出た

警報器使用

平町古
八月中旬に 鍛冶町

より好間村に至る縣道の鐵

氷屋さん俄に繁昌

當分暑さが續かし度い

昨日あたりより急に真夏ら
しい暑氣となり今まで秋の
やうな雨と寒さでこぼし通
しの平町市内氷水業者達
は俄に廻り切れぬ程の忙し
さでぼく／＼としてゐるが
普通もの三錢から五錢、た
ねもの五錢から十錢、アイ
スクリーム五錢から十錢、
ソーダ水十錢から十五錢何
れも賣れ、ばばろい儲けで
當分この暑さを續かしたい
と喜んでゐる

周旋料の

分け前から

桂庵の喧嘩

が余興には奇術及び民謡
等ある由

尼子稻荷祭

境内に余興

平町長橋町尼子稻荷神社で
は八月一日に宵祭を執行す

は平町三丁目大... 米十方
長谷川に周旋料の分前を請
求した處生意氣だと突然吉
岡の左耳を拳骨で毆打し全
治四週間の裂傷を負はした
ので本日平署に告訴さる

故郷へ逃げる

途中少年捕る

石城郡夏井村宇杉並大和田
正由方雇人山形縣鶴岡町生
れ菅野豊(九)同縣生れの同
村渡邊政吉方雇人庄司三藏
(一〇)の兩名は故郷に歸り度
いとて昨廿九日午後八時
合せて逃出したが持合した
金で足らぬので福島迄の切
符を求め本日午前五時四十
二分平署發平郡線で出發し
たが雇主が其筋へ願出た爲
め郡山驛で東北本線に乗替
の際取押保護を加へて居る
との照會が平署へ届いた

別雷神社祭り

平町

七丁目別雷神社では町内青
年團の應援で卅一の一兩日
祭典を行ふが余興には浪花
節花火等があると

佑賢の同窓會

平町

私立佑賢學舎第卅四回同窓
會は来る八月一日午前九時
から同舎内に開催種々協議

自轉車を走らせて

雨合羽の映畫説明

活動寫眞にこり過ぎて

昨廿九日午後三時頃平町南
町裏を雨合羽を着た若者が
自轉車に乗つて

大聲に

活動のセリフ

明日のラジオ
報氣
今夜は北東の風
晴れ明日は南東
の風晴れ午後
は夕立の氣味

今晚の部

- 後六〇〇 (子供の時間)
兒童劇「月夜の小鳥」J.O
AK唱歌隊
- 後六三〇 東西文學の比
較 東西滑稽文學の比較
- 後七〇〇 全國ニュース
(官廳ニュースを含む)河
北新報社 ニュース 氣象
通報 告知事項 番組表
後七三〇 東北に適應する
三十講「東北に適應する
産副業」ナメコの人工栽培
その他「(二)林學博士三

明日の部

- 前六〇〇 ラヂオ体操
- 後六三〇 夏期英語講座
「初等科」(三) 村岡博
前九〇〇 氣象通報
前九一〇 料理献立 日

湯本賭博檢舉

石城

郡湯本町宇三國理髮業星政
子(〇)方で廿九日午後十時
同人及び同字無職下遠光秀
(三)平町新川町廿六平館樂
士高倉四郎(三)内郷村宮料
理店松本政春(三)湯本町上
町遠藤繁雄(三)の五名が車
座になり花札賭博の最中密
行の湯本駐在所巡査に踏込
まれ一網打盡に檢舉され平
署へ押送された

飛出し

徒歩で平町へ

入り相變らず活動のセリフ
を喋りながら徘徊して居
たが廿九日午後二時頃南町
若松病院前にあつた自轉車
を無断で乗り廻して居たも
のである事判明本日家人に
引渡した

水稻品種別の

作付反別調査

穀物検査平支所では支所員
全部及び四倉勿來の兩出張
員總出となり本日より九月
五日迄の期間で管内四町二
十二ヶ村の作付調査を開始
したが調査事項は左の如く
である
△水稻品種別作付反別調

用品値段
前一〇三〇 夏期講習
「尺八入門」(五)吉田晴風
正午 時報
後六〇〇 五 獨唱と管絃樂
獨唱 丸山和歌子 東京ラ
ヂオオーケストラ 指揮
奥山貞吉
後七〇〇 全國ニュース
河北新報社 ニュース 氣
象通報 告知事項
後七三〇 家庭大學講座
「論理學」第十五講(終)早
稻田大學教授 中桐徹太
郎

助
後六〇〇 (子供の時間)
お話「こんな手工を御存
知ですか」森垣操子
後六三〇 東北文學の比
較「東西滑稽文學の比較」
(四)文學博士 成瀬無極
(官廳ニュースを含む)河
北新報社 ニュース 氣象
通報 告知事項
後七三〇 趣味講座「我
が郷土の傳説」(西海の
卷)宮崎高等農林學校教
授 農學博士 日野巖宮
崎縣高千穂町
後八三〇 映畫物語「金
忠輔」花村嶺洞
後九〇〇 義太夫 淨瑠
璃 竹本朝太夫 三味線
豊澤松太郎

△水稻第二次採種圃調査
△普通苗代調査
尚各村擔當調査員は木名瀬
所長が神谷、草野、夏井、
永戸、三坂、吉田吏員が渡
邊、内郷、赤井、下小川、
川前、平窪、岩倉吏員が高
久、磐崎、湯本、好間、菊
地技手が大浦、菅野技手は
四倉町、佐々木技手は大野
村、秋山技手は錦村、星技
手は山田村、須藤技手は種
田町、石川技手は田人、入
遠野、上遠野、蛭田技手は
勿來町に夫々出張すると

内科

醫學博士

難波 睦

電話 五〇二番

平町新川端(釜屋新宅向)

無代進呈

佛教書籍佛畫佛像佛具總目錄月刊雜誌「佛教之
日本」最近號
ハガキにて御申込み次第無代進呈す
東京神田今川小路
日本佛教新聞社

◇夏の食べ物には
滋養豊富な

鳥肉!!! をお勧めします
電話二八六番へ御注文下さい
多少に不拘配達致します

(平南町) **鳥**
(釜屋裏) **菊**

貰って重寶 贈って便利な
三井の商品切手
平三電 三八番

尖端美人の出現

◇時節柄大勉強◇

盛夏・濃緑・美酒

平南町(釜屋裏) **カフエー壽**
電(呼)二八六番

◎各種高級ゴム靴

五圓均一革靴
赤編上靴 黒編上靴 赤編短靴 黒編短靴

白リンネル皮底靴 四圓
白リンネル白ゴム底靴 二圓
各種旅行用トランクも取揃へて
あります

マルトモビル **菊地靴店**

辯護士開業御挨拶

私儀平検事局検事任職中は公私共多大の御厚情を蒙り奉
深謝候今回官職を辭し左記箇所にて辯護士を開業し町
寧且懇切に民事商事の訴訟代理等並に刑事辯護等各般の
法律事務に専従致すべく候間倍舊の御引立に預り度乍畧
儀以紙上奉懇願候

昭和六年七月

平町字搔槌小路一番地(田町大通)

辯護士 從四位 勤四等

武田清次郎

貸切の!!

御用命はゼヒ

電話三九五番へ

芹澤自動車商會
タクシ一部
貨物運輸部

來る八月二日

二の丑賣出し

うな重 七十錢
うな井 五十錢以上
かばやき 八十錢以上

多少に不拘御用命願ひます

配達迅速 **魚榮**

平町田町(錦水隣)
電話四二四番

◆後丑の日賣出し

大蒲焼 一圓
うな井 七十錢

松本樓

電話百十三番

其他特に御注文の儀は御相談に應じます

同窓會通知

來る八月一日午前九時より第三十四回
同窓會を開催す、此廣告を以て通知に
代ふ

昭和六年七月

磐城佑賢學舎同窓會

氷水開業廣告

弊店等蒲鉾製造販賣期間中は多大の御
引立に預り厚く御禮申上げます、今回
例年の通り氷水及アイスクリーム其他
氷加工清涼飲料物の製造販賣を開始致
しましたから多少に拘はらず御用命御
引立の程願ひ上げます。

砂糖。大暴落のため

味は百パーセント

□アイスクリーム 十錢
□アツキアイス 五錢
□水豆 八錢
□ミルクケーキ 二十錢

その他一切……出前迅速

平警察署通り

藤市
電話二〇五番

平町字一丁目

藤寅
電話一四一番

平警察署通り

更科 **藤よし**
電話一六六番

同

せ印 **魚清食堂部**
電話六三三番

(柳川なべ 一人前三十錢)